

急性心筋梗塞の患者で病院到着からPCIまでの 所要時間が90分以内の患者の割合

【指標の説明】

急性心筋梗塞の治療では、発症後可能な限り早期に、閉塞した冠動脈の血流再開を行うことが重要です。治療は主に、カテーテルを使って閉塞した冠動脈にバルーンやステントを入れるPCI(経皮的冠動脈治療)が行われます。日本循環器学会の「急性心筋梗塞(ST上昇型)の診療に関するガイドライン」では、発症後12時間以内に来院し、病院到着から90分以内にPCIを実施することが重要とされています。病院到着からPCIが実施されるまでの時間は、診断、専門スタッフのスタンバイ、カテーテル室や機材の準備等に要する時間に左右されており、緊急に高度な医療を提供する急性期病院の指標の1つです。

【指標の定義】

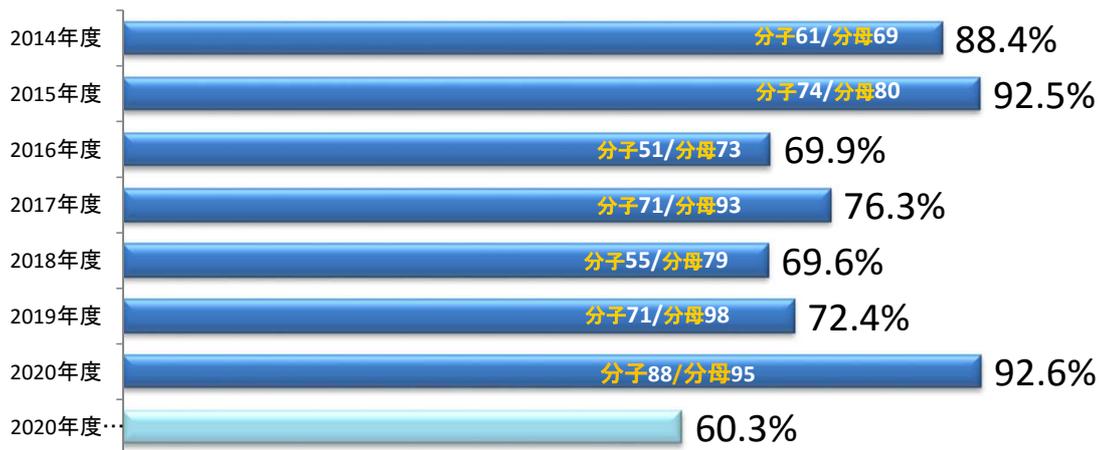
京都大学QIP(Quality Indicator/Improvement Project)の定義を参考にしています。

分子 分母のうち、入院日もしくは翌日に下記の手術が実施された件数(※90分以内とは限らない)

- ・経皮的冠動脈形成術(急性心筋梗塞)
- ・経皮的冠動脈ステント留置術(急性心筋梗塞)

分母 18歳以上の急性心筋梗塞入院(主病名及び投資病名がI210、I211、I212、I213)で、

- ・経皮的冠動脈形成術(急性心筋梗塞、不安定狭心症、その他)
- ・経皮的冠動脈ステント留置術(急性心筋梗塞、不安定狭心症、その他)



京都大学QIP 2020年度計測結果より、参加する295病院の平均

